

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472200286	事業の開始年月日	2000年9月1日	
		指定年月日	2020年9月1日	
法人名	有限会社 朋悠生活研究舎			
事業所名	グループホームゆう柴田 ユニット名：A棟, B棟			
所在地	(〒 989-1608) 宮城県柴田郡柴田町剣崎 2 丁目 4 番 3 号			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2023年10月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ 自宅で過ごしている時とほぼ変わらない生活が出来る。
- ・ 家族の意見や要望を日々のサービス提供の中で活かしている。
- ・ 利用者の体調変化時は速やかに受診して健康管理に充分配慮している。
- ・ 利用者が安心安全に日々過ごせるような環境、そして笑顔でいられるような個々の支援を心掛けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年12月18日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

<運営理念>

- ・ 人としての尊厳を守ります
- ・ 地域の一住民として地域との関わりを深めていきます

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人は仙台市や柴田町で訪問介護、グループホームを事業展開している。「ゆう柴田」は開設23年目を迎え2022年4月より1ユニットから新設して2ユニットで運営している。ホームは白石川と阿武隈川の合流地点に近い開けた地域に位置し、周辺には住宅や田畑が広がり、向かいに住民もよく利用する公園がある。

【事業所の優れている点・工夫点】

職員は「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をモットーに利用者が時間に追われず、その人らしい生活が送れるように寄り添って支援している。利用者は新聞を読んだり、公園を散歩するなど思い思いに過ごしている。栄養バランスを考えたメニューや冬至かぼちゃなどの行事食も作り、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。コロナ禍で以前のように地域との交流はできていないが、公園に来る人と挨拶を交わしたり、遊んでいる子どもたちと言葉を交わすなど、日常的な交流は続いている。介護職員だけでなく専任の事務職員も両ユニットの申し送りに参加し、情報共有している。また、地域の他事業所との連絡会の研修や事例検討に参加し、職員のスキルアップになっている。協力医には受診のたびに生活機能とサービスに関する意見を書面でもらうほか医療的な相談にのってもらえるなどの協力を得て、利用者の健康管理に努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームゆう柴田
ユニット名	A棟, B棟

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームゆう柴田 ）「ユニット名:A棟、B棟」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者への日々のサービス提供において体制のとれる月間目標を毎月設定し、職員間共有して実践の中に活かしている	運営理念を玄関と事務室に掲示している。この理念を基に作ったモットー「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をリビングに掲示しており、目につきやすいため利用者も読んでいます。職員はこのモットーを念頭に支援している。新人職員には実践で理念に基づいて指導している。毎月理念を基に月間目標を作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5類になったとはいえ、まだコロナ感染症が流行している為、買い物、行事参加は通常通り行ってはいない。自治会、他の会合も今後は流行具合を見ながら検討していく予定となっている。	自治会に加入している。コロナ禍以前のように地域との交流する機会が少ないが、利用者が老人会の行事に参加したり、町の福祉祭りに利用者と職員が一緒に手作りした「切り絵」などを出展している。公園を散歩している人や遊んでいる子どもたちと挨拶を交わしている。地元の大学の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設で得た経験や事例を活かし、地域の方に電話、訪問等による相談に応じ、アドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症がまだ流行している為、会議は見送っているが隔月に活動内容を報告書にし、委員に提出している。	コロナ禍で対面での運営推進会議は開催しておらず、年6回、民生委員、家族代表、町職員、地域包括職員に事業所の状況、活動報告等の文書を手渡しや郵送で配布している。その際に情報交換している。対面での開催については町に相談し検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の問題や疑問が生じた時、役場（福祉課長寿介護班）や包括支援センターに相談してアドバイスを頂くなど行政の協力を得ながらサービス向上に努めている	運営推進会議のメンバーに町の職員が参加しており、報告書類を手渡しする際に情報交換している。地域包括職員とは利用者の情報についてやり取りしている。また、地域包括支援センター主催のケアネットワーク連絡会に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束をしないケアを基本としており、拘束のないケアの工夫を行なっている。やむを得ず拘束せざるを得ない場合は、家族から同意書を頂いてケアサービスを行っている	身体拘束廃止委員会を年4回、ユニット毎に開催している。当日参加できない職員には会議録と口頭で報告している。安全対策のため転倒防止用のセンサーが必要な場合には、家族の了解を得て使用している。日課で玄関前の公園を散歩する利用者を見守ったり、少し離れたところへの散歩は職員が同行している。防犯上、玄関には24時間センサーを使用し、夜間のみ施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会を開催するなどして理解している。事業所内での虐待がないよう職員間の引き継ぎを密にするなどして特段の注意を払い、防止につなげている	虐待防止のための指針を作成している。新人研修で「虐待の芽チェックリスト」を使って研修し、職員は自己チェックを行いながら、自分のケアの振り返りを行っている。管理者は、気になる言葉遣いなどその都度注意し、職員の相談や話をよく聞くように心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	例年だと支援事業や成年後見制度の勉強会に参加しているが、コロナ感染症がまだ流行している為、勉強会等には流行具合を検討しながら参加している。必要な人には活用できるように支援する方向で考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には家族等に契約書等を十分説明し、理解して頂いたうえで契約書を取り交わしている。退居時も十分な説明を行い、不安のないよう次の入居先を支援している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内には『御意見賜り箱』を設置し、苦情受付の窓口を設けている。面会時には利用者の様子を伝え、職員が利用者や家族の意見を引き出すよう努めている。ホーム内で解決出来ない場合は第三者への相談窓口も明示してある	家族からは面会や料金支払いで訪問した際、または電話で話を聞いている。面会は感染症予防対策を徹底しながら玄関で行っている。担当職員が利用者の様子を記入した手紙を毎月請求書と一緒に送付し、家族からの問い合わせにも対応している。2ヶ月に1回「ゆうしばただより」でホームの活動の様子を伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回の定期ミーティング時に、あるいは随時、意見や提案がある場合は、その都度協議し、ケア向上に反映させている	ユニットごとに職員会議を開催し、利用者ごとの支援や翌月の目標について話し合っている。日々の申し送りでも職員から出された提案について話し合い、解決が難しい場合には会議で討議している。専任事務職員も両ユニットの申し送りに参加し、情報共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の担務を明確にし、責任を持つことによって各自が向上心を持って働けるよう努めている。、定期昇給・賞与(3回/年)を支給している。又、人事評価制度を導入してやりがいのある職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数、スキルを考え、育成の為の研修には出来る限り、参加している。研修後は報告書の提出を義務化し、回覧している。定期ミーティング時には研修内容を報告してもらい、共有化している		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ流行の為町内のグループホーム間での交換研修や懇親会等は少しずつ行っているが、電話等で連絡をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。県内や町内のGH部会との交流を図り、ネットーク作りにも力を入れている	年2回、地域包括支援センターが主催する「ケアネットワーク連絡会グループホーム部会」の事例検討や研修に参加し、他のグループホーム管理者と交流して運営に活かしている。「宮城県認知症グループホーム協議会」に加盟しており、「地域支援サポーター」になっている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の実調時には本人と面接し、話しをよく聴くようにしている。見学可能な方は、ホームに来て頂き、不安状況を取り除くよう配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時から家族からの話しに耳を傾け又、実調時にも話しをよく聴くようにしている。お互い納得できるよう努めている。面会時には家族との話し合いを持つなどして信頼関係を築いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話しをよく聴き、情報交換に努めている。他のサービス利用についても担当ケアマネと相談し、サービス情報の提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、洗濯物たたみ、掃除の手伝いや趣味を職員と一緒にやり、お互いに支えあう関係にある		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の立場を理解した上で、家族と一緒に過ごせる時間（外出、希望家族には利用者の部屋に泊る）を作るなど支援している（コロナ流行の為に家族にも長時間の面会は控えている）		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外のこれまでの付き合いのあった友達、知人の面会や在宅時のかかりつけ病院受診での馴染みの人達との関りを大切にしている（コロナ流行の為に、知人、友人の面会は控えている）	親戚や友人等から面会希望があった際は家族に確認したうえで面会を行っている。電話やハガキでのやり取り、携帯電話の使用、家族との墓参りや馴染みの美容院に行くこと、訪問理・美容の利用など、利用者一人ひとりのこれまでの関わりが続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブル防止を考え、ホールでの席替えなどに配慮するなど利用者同士が良い関係を持ち、支え合えるように常に努力している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族の方には、必要に応じて相談（ケアについてや施設紹介等）ごとにいつでも応じられるようにしており、フォローに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドや生活歴などアセスメントにて把握しており、ミーティング等で検討している。利用者との日常の会話の中から思いや暮らし方の意向の把握に努め、ケア向上に活かしている	入居前の情報を確認し、日々の支援で把握した意向は申し送りノートで情報共有している。言葉で表せない人は、表情から思いをくみ取っている。新聞を読む、中庭の野菜の水やり、草むしり、収穫など利用者がやりたいことができるように支援している。毎日散歩を日課にしている人の見守り支援も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り（家族・本人）や実調、担当ケアマネ、以前利用していた施設関係者からの情報を収集するなどして経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況については、個々のケース記録や受診記録（医務日誌）、申し送りで利用者の現状を常に把握している		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの関わりの中で本人の思いや希望をくみ取り、また、家族の意見も取り入れ、利用者の現状に即して個々の視点にたったケアプランを作成している	介護計画は短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月で変化があればその都度見直している。担当職員がモニタリングし、家族や医師から意見を聞き、ユニット会議でカンファレンスを行い見直している。家族には来所時に説明し同意を得ている。遠方の家族には電話で説明し同意を得たり、本人からサインをもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子を個別のケース記録やケアカンファレンス記録に記入したものを参考にするなど情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、理・美容院、買物等家族が付き添えない場合は、職員が対応するなど個別ニーズに柔軟に対応し、支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年だと地域住民のボランティア等の受け入れや町内の行事に参加するなどして日頃楽しめるよう支援しているが、コロナ流行の為、行事等参加を検討している最中である。その為思うように支援できていない		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を極力取り入れ、適切な医療を受けられるように支援している。ホームのかかりつけ医院に変更する時は、本人や家族の同意を得てからにしている	協力医がかかりつけ医の利用者には職員が同行し、それ以外のかかりつけ医や専門医の通院は基本家族が付き添い受診している。協力医から生活機能とサービスに関する意見を書面でもらい、家族からの受診結果も「受診記録」に記入し情報共有している。随時、医療面について協力医療機関の医師や看護師に相談し、助言を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じてかかりつけ医院や協力医院の医師、看護師に相談し、アドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時、家族や病院の相談員、看護師と相談しながら利用者が安心して過ごせるようにしている。又、病院関係者と相談行うなど情報交換を密にし、早期に退院できるよう医療機関と協働している		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況変化に応じたケアプランを作成しており、医師・家族・本人・職員が繰り返し話し合いをもち、ホームでの生活が継続できるよう方針の共有化を図っている。終末期に向けた意志確認書も取交わしている	「重度化及び看取り介護に関する指針」を作成し、同意書を交わしている。24時間対応の医療機関との連携がないため看取りは行っていない。重度化した場合にはかかりつけ医に相談し、施設や病院を紹介してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命に関する学習や訓練は全職員受けており、急変や事故発生時の対応に備えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した火災や地震時の避難訓練を消防署立ち合いにて年2回、自主訓練年3回実施している。備品等も一緒に点検している。防災訓練マニュアルや地震発生対応マニュアルも備えている	消防署立ち合いで夜間想定避難訓練を年2回、地震想定自主訓練を年3回行っている。町に水害時の「避難確保計画」を提出したが、まだ訓練は行っていない。感染症予防対策として、検温、手指消毒、換気等を徹底している。	阿武隈川が近いこともあり、水害想定避難訓練の実施を期待する。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重した呼び方をしている。トイレやパット交換時は、さりげなく声掛けするなどプライバシーに配慮している	接遇、プライバシー保護についての研修は入職時に行っている。日々の業務の中でもプライバシー保護について話し、実践に活かしている。トイレにはさりげなく誘導したり、パット交換なども手早く行えるよう努めている。基本呼び名は名字に「さん」、同じ名字の人は名前に「さん」をつけて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できる環境作りや声掛けを行い、自分が納得して暮らせるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ流行の為、買い物等には一緒に出かけることがあまり出来ないが利用者の希望を出来るだけ受け入れ、気分転換に公園など散歩している。食事の時は本人のペースに合わせて食事をして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容院へは利用者の行きつけの店を利用できるようにしている。コロナ流行の為、短時間の訪問カットも利用している。その人らしい身だしなみができるよう声掛けを行っている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備に参加して頂いている。利用者が楽しめるよう個々に合わせた工夫をしている。食事スタッフと一緒に食べ、片付けも出来る人には手伝ってもらっている	献立は担当職員が栄養バランスを考え作成し、食材の買い出しや調理も職員が行っている。コロナ禍で利用者は調理には関わらず、後片付けなどできることを行っている。職員も一緒に食事している。冬至カボチャなどの行事食を作り、干し柿やずんだ作りなども楽しんでいる。中庭で収穫した野菜が食卓に上るときもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取チェックは毎食行っている。状態に応じて水分摂取量のチェックも行っている。食事は自前でつくっており、カロリー計算はできないが、バランスのとれた食事作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常的に食後のうがい、歯磨き、入歯洗浄など支援している。又、出血や炎症のチェックも行っている		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせたトイレでの排泄を支援している。必要な人のみ排泄チェック（量、色、間隔）を行っている	各部屋にトイレがある。タイミングに合わせて声掛け誘導し、見守りでトイレでの排泄を支援している。夜間は転倒防止のためにセンサーを使用したり、ナースコールで対応している。状態により排泄チェックを行い、便秘改善などには医師に相談し薬を服用したり、水分補給で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行っている。主治医と相談し下剤を調整したり乳製品等飲食物を工夫し、おやつ時に食している。食事時の水分摂取にも気をつけている。利用者が散歩等で体を動かすように働きかけている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は利用者の希望に合わせて、毎日楽しんでもらえるよう支援している。職員はその間、脱衣所で待機、見守りしている	週2回午前入浴が基本であるが、希望があれば午後入浴にも応じている。自立の人が多く見守りで対応している。車いすの人にはシャワー浴で支援している。好きな入浴剤で楽しんでいる人もいる。入浴を拒む場合には、時間をおいたり声掛けや職員を替えるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内外において身体を動かす機会を作り、気持ちよく眠れるよう支援している。就寝時間は特に決めることなく、利用者の生活リズムに合わせている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報については、薬剤シートで確認し、理解している。服薬については、完全に飲み込むまで確認している。また、症状に変化が見受けられた場合は、速やかに家族や医師に連絡し確認をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合った役割（掃除、調理、食事後の片付け、洗濯物干し、たたみ等）を持ってもらい、張り合いのある日々を過ごせるようにしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行の為、人混みへの外出は控えているが天候や利用者の状況に応じて散歩に出かけている。利用者が気分転換できるよう支援している。	向かいにある公園で、日課としている散歩をしたり、職員が同行し少し遠くまで散歩するなど、日常的に外出し気分転換している。ドライブで船岡城址や角田の道の駅に出かけることもある。家族と外食や墓参りに出かける人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は手持ち金を所持してもらっている。管理できない方はお金を必要とするときに職員が本人に手渡し、使ってもらう。入居者一人ひとりに応じた支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をいつでもかけられるようにしている。家族からホームに電話がかかってきたときは取り次ぎ、自室でゆっくり話し出来るように支援している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見やすい時計を2ヶ所に置いている。季節の花なども置いている。職員は声のトーンに気をつけ利用者に接している	A棟は回廊式の建物で、新しいB棟は長い廊下の左右に部屋があり、利用者は廊下を散歩している。見やすい場所に時計2台、日めくりカレンダーを設置するなど、見当識に配慮している。リビングや玄関には観葉植物や利用者が手作りした作品、季節の物を飾り、壁には写真や絵を貼っている。乾燥対策でリビングに空間除菌脱臭機を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘りごたつのある畳の部屋もあり、利用者が思い思いに過ごせる場所を確保している。事務室でもソファに腰掛けTVや新聞を見られるよう配慮している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談し、タンス・テレビ・ラジオ・写真等本人の好みのもを持ち込み、居心地よく安心して過ごせるよう配慮している	ベッド、トイレ、洗面台が備え付けられ、A棟はパネルヒーター、B棟はエアコンが設置されている。利用者はタンス、テレビ、ラジオなどを持ち込み込んだり、家族の写真を飾っている人もいる。家具の配置などは、利用者の状態や動線に配慮している。居室清掃や衣替えは職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関よりホーム内はバリアフリーになっており、手すりも廊下全域にとりつけてあり、安全に自立した生活が送れるよう工夫してある		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472200286	事業の開始年月日	2000年9月1日	
		指定年月日	2020年9月1日	
法人名	有限会社 朋悠生活研究舎			
事業所名	グループホームゆう柴田 ユニット名：A棟, B棟			
所在地	(〒 989-1608) 宮城県柴田郡柴田町剣崎 2 丁目 4 番 3 号			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2023年10月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ 自宅で過ごしている時とほぼ変わらない生活が出来る。
- ・ 家族の意見や要望を日々のサービス提供の中で活かしている。
- ・ 利用者の体調変化時は速やかに受診して健康管理に充分配慮している。
- ・ 利用者が安心安全に日々過ごせるような環境、そして笑顔でいられるような個々の支援を心掛けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年12月18日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

<運営理念>

- ・ 人としての尊厳を守ります
- ・ 地域の一住民として地域との関わりを深めていきます

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人は仙台市や柴田町で訪問介護、グループホームを事業展開している。「ゆう柴田」は開設23年目を迎え2022年4月より1ユニットから新設して2ユニットで運営している。ホームは白石川と阿武隈川の合流地点に近い開けた地域に位置し、周辺には住宅や田畑が広がり、向かいに住民もよく利用する公園がある。

【事業所の優れている点・工夫点】

職員は「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をモットーに利用者が時間に追われず、その人らしい生活が送れるように寄り添って支援している。利用者は新聞を読んだり、公園を散歩するなど思い思いに過ごしている。栄養バランスを考えたメニューや冬至かぼちゃなどの行事食も作り、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。コロナ禍で以前のように地域との交流はできていないが、公園に来る人と挨拶を交わしたり、遊んでいる子どもたちと言葉を交わすなど、日常的な交流は続いている。介護職員だけでなく専任の事務職員も両ユニットの申し送りに参加し、情報共有している。また、地域の他事業所との連絡会の研修や事例検討に参加し、職員のスキルアップになっている。協力医には受診のたびに生活機能とサービスに関する意見を書面でもらうほか医療的な相談にのってもらえるなどの協力を得て、利用者の健康管理に努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームゆう柴田
ユニット名	A棟, B棟

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームゆう柴田 ）「ユニット名:A棟、B棟」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者への日々のサービス提供において体制のとれる月間目標を毎月設定し、職員間共有して実践の中に活かしている	運営理念を玄関と事務室に掲示している。この理念を基に作ったモットー「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をリビングに掲示しており、目につきやすいため利用者も読んでいます。職員はこのモットーを念頭に支援している。新人職員には実践で理念に基づいて指導している。毎月理念を基に月間目標を作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5類になったとはいえ、まだコロナ感染症が流行している為、買い物、行事参加は通常通り行ってはいない。自治会、他の会合も今後は流行具合を見ながら検討していく予定となっている。	自治会に加入している。コロナ禍以前のように地域との交流する機会が少ないが、利用者が老人会の行事に参加したり、町の福祉祭りに利用者と職員が一緒に手作りした「切り絵」などを出展している。公園を散歩している人や遊んでいる子どもたちと挨拶を交わしている。地元の大学の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設で得た経験や事例を活かし、地域の方に電話、訪問等による相談に応じ、アドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症がまだ流行している為、会議は見送っているが隔月に活動内容を報告書にし、委員に提出している。	コロナ禍で対面での運営推進会議は開催しておらず、年6回、民生委員、家族代表、町職員、地域包括職員に事業所の状況、活動報告等の文書を手渡しや郵送で配布している。その際に情報交換している。対面での開催については町に相談し検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の問題や疑問が生じた時、役場（福祉課長寿介護班）や包括支援センターに相談してアドバイスを頂くなど行政の協力を得ながらサービス向上に努めている	運営推進会議のメンバーに町の職員が参加しており、報告書類を手渡しする際に情報交換している。地域包括職員とは利用者の情報についてやり取りしている。また、地域包括支援センター主催のケアネットワーク連絡会に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束をしないケアを基本としており、拘束のないケアの工夫を行なっている。やむを得ず拘束せざるを得ない場合は、家族から同意書を頂いてケアサービスを行っている	身体拘束廃止委員会を年4回、ユニット毎に開催している。当日参加できない職員には会議録と口頭で報告している。安全対策のため転倒防止用のセンサーが必要な場合には、家族の了解を得て使用している。日課で玄関前の公園を散歩する利用者を見守ったり、少し離れたところへの散歩は職員が同行している。防犯上、玄関には24時間センサーを使用し、夜間のみ施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会を開催するなどして理解している。事業所内での虐待がないよう職員間の引き継ぎを密にするなどして特段の注意を払い、防止につなげている	虐待防止のための指針を作成している。新人研修で「虐待の芽チェックリスト」を使って研修し、職員は自己チェックを行いながら、自分のケアの振り返りを行っている。管理者は、気になる言葉遣いなどその都度注意し、職員の相談や話をよく聞くように心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	例年だと支援事業や成年後見制度の勉強会に参加しているが、コロナ感染症がまだ流行している為、勉強会等には流行具合を検討しながら参加している。必要な人には活用できるように支援する方向で考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には家族等に契約書等を十分説明し、理解して頂いたうえで契約書を取り交わしている。退居時も十分な説明を行い、不安のないよう次の入居先を支援している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内には『御意見賜り箱』を設置し、苦情受付の窓口を設けている。面会時には利用者の様子を伝え、職員が利用者や家族の意見を引き出すよう努めている。ホーム内で解決出来ない場合は第三者への相談窓口も明示してある	家族からは面会や料金支払いで訪問した際、または電話で話を聞いている。面会は感染症予防対策を徹底しながら玄関で行っている。担当職員が利用者の様子を記入した手紙を毎月請求書と一緒に送付し、家族からの問い合わせにも対応している。2ヶ月に1回「ゆうしばただより」でホームの活動の様子を伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回の定期ミーティング時に、あるいは随時、意見や提案がある場合は、その都度協議し、ケア向上に反映させている	ユニットごとに職員会議を開催し、利用者ごとの支援や翌月の目標について話し合っている。日々の申し送りでも職員から出された提案について話し合い、解決が難しい場合には会議で討議している。専任事務職員も両ユニットの申し送りに参加し、情報共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の担務を明確にし、責任を持つことによって各自が向上心を持って働けるよう努めている。定期昇給・賞与(3回/年)を支給している。又、人事評価制度を導入してやりがいのある職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数、スキルを考え、育成の為の研修には出来る限り、参加している。研修後は報告書の提出を義務化し、回覧している。定期ミーティング時には研修内容を報告してもらい、共有化している		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ流行の為町内のグループホーム間での交換研修や懇親会等は少しずつ行っているが、電話等で連絡をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。県内や町内のGH部会との交流を図り、ネットーク作りにも力を入れている	年2回、地域包括支援センターが主催する「ケアネットワーク連絡会グループホーム部会」の事例検討や研修に参加し、他のグループホーム管理者と交流して運営に活かしている。「宮城県認知症グループホーム協議会」に加盟しており、「地域支援サポーター」になっている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の実調時には本人と面接し、話しをよく聴くようにしている。見学可能な方は、ホームに来て頂き、不安状況を取り除くよう配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時から家族からの話しに耳を傾け又、実調時にも話しをよく聴くようにしている。お互い納得できるよう努めている。面会時には家族との話し合いを持つなどして信頼関係を築いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話しをよく聴き、情報交換に努めている。他のサービス利用についても担当ケアマネと相談し、サービス情報の提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、洗濯物たたみ、掃除の手伝いや趣味を職員と一緒にやり、お互いに支えあう関係にある		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の立場を理解した上で、家族と一緒に過ごせる時間（外出、希望家族には利用者の部屋に泊る）を作るなど支援している（コロナ流行の為に家族にも長時間の面会は控えている）		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外のこれまでの付き合いのあった友達、知人の面会や在宅時のかかりつけ病院受診での馴染みの人達との関りを大切にしている（コロナ流行の為に、知人、友人の面会は控えている）	親戚や友人等から面会希望があった際は家族に確認したうえで面会を行っている。電話やハガキでのやり取り、携帯電話の使用、家族との墓参りや馴染みの美容院に行くこと、訪問理・美容の利用など、利用者一人ひとりのこれまでの関わりが続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブル防止を考え、ホールでの席替えなどに配慮するなど利用者同士が良い関係を持ち、支え合えるように常に努力している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族の方には、必要に応じて相談（ケアについてや施設紹介等）ごとにいつでも応じられるようにしており、フォローに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドや生活歴などアセスメントにて把握しており、ミーティング等で検討している。利用者との日常の会話の中から思いや暮らし方の意向の把握に努め、ケア向上に活かしている	入居前の情報を確認し、日々の支援で把握した意向は申し送りノートで情報共有している。言葉で表せない人は、表情から思いをくみ取っている。新聞を読む、中庭の野菜の水やり、草むしり、収穫など利用者がやりたいことができるように支援している。毎日散歩を日課にしている人の見守り支援も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り（家族・本人）や実調、担当ケアマネ、以前利用していた施設関係者からの情報を収集するなどして経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況については、個々のケース記録や受診記録（医務日誌）、申し送りで利用者の現状を常に把握している		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの関わりの中で本人の思いや希望をくみ取り、また、家族の意見も取り入れ、利用者の現状に即して個々の視点にたったケアプランを作成している	介護計画は短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月で変化があればその都度見直している。担当職員がモニタリングし、家族や医師から意見を聞き、ユニット会議でカンファレンスを行い見直している。家族には来所時に説明し同意を得ている。遠方の家族には電話で説明し同意を得たり、本人からサインをもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子を個別のケース記録やケアカンファレンス記録に記入したものを参考にするなど情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、理・美容院、買物等家族が付き添えない場合は、職員が対応するなど個別ニーズに柔軟に対応し、支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年だと地域住民のボランティア等の受け入れや町内の行事に参加するなどして日頃楽しめるよう支援しているが、コロナ流行の為、行事等参加を検討している最中である。その為思うように支援できていない		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を極力取り入れ、適切な医療を受けられるように支援している。ホームのかかりつけ医院に変更する時は、本人や家族の同意を得てからにしている	協力医がかかりつけ医の利用者には職員が同行し、それ以外のかかりつけ医や専門医の通院は基本家族が付き添い受診している。協力医から生活機能とサービスに関する意見を書面でもらい、家族からの受診結果も「受診記録」に記入し情報共有している。随時、医療面について協力医療機関の医師や看護師に相談し、助言を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じてかかりつけ医院や協力医院の医師、看護師に相談し、アドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時、家族や病院の相談員、看護師と相談しながら利用者が安心して過ごせるようにしている。又、病院関係者と相談行うなど情報交換を密にし、早期に退院できるよう医療機関と協働している		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況変化に応じたケアプランを作成しており、医師・家族・本人・職員が繰り返し話し合いをもち、ホームでの生活が継続できるよう方針の共有化を図っている。終末期に向けた意志確認書も取交わしている	「重度化及び看取り介護に関する指針」を作成し、同意書を交わしている。24時間対応の医療機関との連携がないため看取りは行っていない。重度化した場合にはかかりつけ医に相談し、施設や病院を紹介してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命に関する学習や訓練は全職員受けており、急変や事故発生時の対応に備えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した火災や地震時の避難訓練を消防署立ち合いにて年2回、自主訓練年3回実施している。備品等も一緒に点検している。防災訓練マニュアルや地震発生対応マニュアルも備えている	消防署立ち合いで夜間想定での避難訓練を年2回、地震想定での自主訓練を年3回行っている。町に水害時の「避難確保計画」を提出したが、まだ訓練は行っていない。感染症予防対策として、検温、手指消毒、換気等を徹底している。	阿武隈川が近いこともあり、水害想定での避難訓練の実施を期待する。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重した呼び方をしている。トイレやパット交換時は、さりげなく声掛けするなどプライバシーに配慮している	接遇、プライバシー保護についての研修は入職時に行っている。日々の業務の中でもプライバシー保護について話し、実践に活かしている。トイレにはさりげなく誘導したり、パット交換なども手早く行えるよう努めている。基本呼び名は名字に「さん」、同じ名字の人は名前に「さん」をつけて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できる環境作りや声掛けを行い、自分が納得して暮らせるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ流行の為、買い物等には一緒に出かけることがあまり出来ないが利用者の希望を出来るだけ受け入れ、気分転換に公園など散歩している。食事の時は本人のペースに合わせて食事をして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容院へは利用者の行きつけの店を利用できるようにしている。コロナ流行の為、短時間の訪問カットも利用している。その人らしい身だしなみができるよう声掛けを行っている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備に参加して頂いている。利用者が楽しめるよう個々に合わせた工夫をしている。食事スタッフと一緒に食べ、片付けも出来る人には手伝ってもらっている	献立は担当職員が栄養バランスを考え作成し、食材の買い出しや調理も職員が行っている。コロナ禍で利用者は調理には関わらず、後片付けなどできることを行っている。職員も一緒に食事している。冬至カボチャなどの行事食を作り、干し柿やずんだ作りなども楽しんでいる。中庭で収穫した野菜が食卓に上るときもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取チェックは毎食行っている。状態に応じて水分摂取量のチェックも行っている。食事は自前でつくっており、カロリー計算はできないが、バランスのとれた食事作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常的に食後のうがい、歯磨き、入歯洗浄など支援している。又、出血や炎症のチェックも行っている		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせたトイレでの排泄を支援している。必要な人のみ排泄チェック（量、色、間隔）を行っている	各部屋にトイレがある。タイミングに合わせて声掛け誘導し、見守りでトイレでの排泄を支援している。夜間は転倒防止のためにセンサーを使用したり、ナースコールで対応している。状態により排泄チェックを行い、便秘改善などには医師に相談し薬を服用したり、水分補給で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行っている。主治医と相談し下剤を調整したり乳製品等飲食物を工夫し、おやつ時に食している。食事時の水分摂取にも気をつけている。利用者が散歩等で体を動かすように働きかけている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は利用者の希望に合わせて、毎日楽しんでもらえるよう支援している。職員はその間、脱衣所で待機、見守りしている	週2回午前入浴が基本であるが、希望があれば午後入浴にも応じている。自立の人が多く見守りで対応している。車いすの人にはシャワー浴で支援している。好きな入浴剤で楽しんでいる人もいる。入浴を拒む場合には、時間をおいたり声掛けや職員を替えるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内外において身体を動かす機会を作り、気持ちよく眠れるよう支援している。就寝時間は特に決めることなく、利用者の生活リズムに合わせている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報については、薬剤シートで確認し、理解している。服薬については、完全に飲み込むまで確認している。また、症状に変化が見受けられた場合は、速やかに家族や医師に連絡し確認をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合った役割（掃除、調理、食事後の片付け、洗濯物干し、たたみ等）を持ってもらい、張り合いのある日々を過ごせるようにしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行の為、人混みへの外出は控えているが天候や利用者の状況に応じて散歩に出かけている。利用者が気分転換できるよう支援している。	向かいにある公園で、日課としている散歩をしたり、職員が同行し少し遠くまで散歩するなど、日常的に外出し気分転換している。ドライブで船岡城址や角田の道の駅に出かけることもある。家族と外食や墓参りに出かける人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は手持ち金を所持してもらっている。管理できない方はお金を必要とするときに職員が本人に手渡し、使ってもらう。入居者一人ひとりに応じた支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をいつでもでもかけられるようにしている。家族からホームに電話がかかってきたときは取り次ぎ、自室でゆっくり話し出来るように支援している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見やすい時計を2ヶ所に置いている。季節の花なども置いている。職員は声のトーンに気をつけ利用者に接している	A棟は回廊式の建物で、新しいB棟は長い廊下の左右に部屋があり、利用者は廊下を散歩している。見やすい場所に時計2台、日めくりカレンダーを設置するなど、見当識に配慮している。リビングや玄関には観葉植物や利用者が手作りした作品、季節の物を飾り、壁には写真や絵を貼っている。乾燥対策でリビングに空間除菌脱臭機を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘りごたつのある畳の部屋もあり、利用者が思い思いに過ごせる場所を確保している。事務室でもソファに腰掛けTVや新聞を見られるよう配慮している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談し、タンス・テレビ・ラジオ・写真等本人の好みのもを持ち込み、居心地よく安心して過ごせるよう配慮している	ベッド、トイレ、洗面台が備え付けられ、A棟はパネルヒーター、B棟はエアコンが設置されている。利用者はタンス、テレビ、ラジオなどを持ち込み込んだり、家族の写真を飾っている人もいる。家具の配置などは、利用者の状態や動線に配慮している。居室清掃や衣替えは職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関よりホーム内はバリアフリーになっており、手すりも廊下全域にとりつけてあり、安全に自立した生活が送れるよう工夫してある		